

# 民報 あばしり

NO. 971  
2014/5/25  
発行所  
日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二一四四五八  
F 四三二一四四五七

## 暴風雨 広範囲に被害!

5月16日から17日にかけて、オホーツク海周辺を襲った台風並みの暴風雨は、最大降水量、16日の10分間で2.5ミリ、1時間で11.5ミリ、午前6時から24時間間で87.5ミリ、最大瞬間風速は17日の26.8



メートルでした。この大雨・強風により、網走の各地域で道路をはじめ畑地、ビニールハウス、倉庫、畜舎などに大きな被害をもたらしました。農産物被害は、甜菜45.28トン、馬鈴薯16.25トン、麦1.49トン、野菜類12.37トンの合計75.39トンとなっています。甜菜は、強風により茎から折れて飛ばされたため、植え直しすることです。雨によって流された馬鈴薯も植え直しが行われるようですが、今後の生育に大きな影響を与えることになりません。関係者の話では、今回の被害は、5月の中旬だったので、何とか追いつけと願っているとのことでした。天候の回復と農作物の生育が順調に進むことを願うばかりです。

## 消費税のさらなる増税を許さない! 網走市民の会「総会」

昨年11月に結成された「消費税増税の凍結を求める網走市民の会」は、首相や関係各省庁・大臣に決議文を送付し、市民の声を政府に届



ける市議会請願などを行ってきました。残念ながら、市議会は請願を「継続審査」とし、国も4月から増税を強行しました。その上、政府は、来年10月から、さらに10%増税しようと計画しています。これらの動きを見て、「会」は、「黙っていたら10%どころか12、15...と際限なく増税になる」と考え、名称を変更し、活動を継続していくことを決定しました。5月18日に開かれた総会では、参加団体が5から7に増え、個人参加も増えていることが報告されました。そして、「網走市民のみならず、全国に呼びかけます」というアピール文、国や関係省庁に送付する決議文を採択。市民向けピラの発行も決めました。また、「会」の活動の中心として、2000筆を目標とする署名を集め9月に市議会請願を行うことを決めました。

## いっせえ東奔西走

3年前の3.11大震災で津波被害にあった宮城県石巻市と岩手県宮古市に議会の行政視察で行って来まし

た。今回のテーマは「被害状況とコミュニティの再生」についてでした。両市とも市民の人的喪失と居住環境の壊滅的打撃は復興への道程を大きく遅らせている。それに追い打ちをかけているのが、「震災による職員の喪失と復興過程での二重業務等で、じわりと心身ともに痛んで行政の体力が残っていない状況」と説明していました。石巻市では、今迄あった町内会を中心とする地域コミュニティが仮設住宅で引き裂かれ、新たに造っている復興公営住宅の入居が公平性の名の下に抽選で行われ、コミュニティが更に分断されている現状でした。幸い宮古市では、土地の買い取りでも、高台移転でも、時間をかけて住民合意を基本とし、仮設住宅でのコミュニティ形成を重視し、被災者の持ち家再建でも地域性を重視し、復興公営住宅でもコミュニティを考慮するということでした。安倍政権は東京五輪に国力をシフトしようとしているが、被災地はようやく復興が始まったばかりで、本当の国の支援はこれからと感じました。

## 松浦奮戦メモ

先週13日、16日まで、私の所属する生活福祉委員会の行政視察がり、行ってきました。初めに新潟

県長岡市で、「子育ての駅」事業について視察しました。平成19年から教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設し、子どもの施策を統合し、子どもたちが健やかに成長していくためには、幼児から思春期まで子どもに成長に合わせた一貫した支援体制が必要だとしています。この発想にも驚きましたが、子育て支援センターの他に、保育士のいる屋根付き公園として、子育て世帯の親子や子育てサークルをはじめ、子育ての先輩や次代の親となる若者などの多くの方々が集い合い、ふれあうことで、世代を越えた交流や子育て支援の輪が広がっているようです。訪問した日も若いお母さん同志が、赤ちゃんと来て交流していました。地域ぐるみで子育てする様子は、とても微笑ましく見えました。

## 流水

戦前、戦中、戦後を生きてきた姉は84歳、この頃物忘れが少しづつ増してきていると自覚しているようだが4才の頃に感じた世の中の空気が鮮明に覚えている。今この社会が本当によく似ているという。姉が幼い頃感じた空気が「晴れた日でも暗くて曇り空のように厚い雲が頭上に重くのしかかった光景」が目につくかぶさうだ。当時、日本は満洲へ侵略を続け、国民の自由を奪い戦争への道をひた走っている時だった。▼いまの世の中はどうだろうか、国民の必死の反対の声をよそに安倍首相は悪巧みな法案を次々と成立させ、憲法すら抜け殻にしようとしている。この先にあるのはいつか来た道戦争へとつながる。▼この頃つくづく「とり返しがつかない」という言葉を噛みしめている。あの福島の原発事故をはじめ逆のほれば健康保険の一部負担を許したこと、消費税の創設を許したことなどが思い浮かぶ。「とり返しがつかない」という言葉には、あの時こうしておけばよかったという後悔の気持ちが含まれている。でも、原発については2007年に共産党の吉井英勝元議員が事故を想定して警告を発し続けていた。そして社会保険の改悪も消費税創設でも国民は反対の声を挙げた。にもかかわらずその時々の政権は力で強行してしまつた。▼今、せめぎ合っている憲法問題は絶対後には引けない、子や孫にとり返しのつかない世の中を引き渡さない。永遠の平和を手渡したいわないうで済むように声を上げる今その時だと思ふ。(U)